

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

父親が買っていたので、私も… そうしたら、7億円の大当たり

平成29年度版と昭和最後である昭和63年度版の「宝くじ長者白書」で、それぞれの「宝くじの購入動機」をみてみたら、回答のトップはともに「夢を持ちたい気持ちから」だった。宝くじは時代を超えて「夢の商品」のようだ。

ところで、最近、宝くじ売り場で若い人に購入動機を聞くと「親が買っていたから、自分も…」という人が目立つそうだ。昨年の年末ジャンボ宝くじ（第731回全国自治宝くじ）で1等7億円を当てた大阪府の会社員T子さ

ん（27）もそうした1人。父親がいつも宝くじを買っていたので、2年前から抵抗なくスッと買い始めたそう。当せんした年末ジャンボ宝くじは歯医者への帰りに買ったバラと連番の各10枚のうちのバラの方。

自宅で番号調べをして、当せんを知った瞬間は「ただ、びっくりでしたが、そのあと、すぐに頭に浮かんだのは、これからは、セール品じゃなくて、お買い物ができる！」ということだったとか。換金手続きを無事に終えたT子さん。改めて、使い道をたずねたら「結婚資金にも使いたいと思います」と嬉しそう。そして「父親のおかげで当たったといえるかもしれませんね」とも語っていた。



ご当地クーちゃん
とちおとめクーちゃん

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

大みそかの夜に家族がそろって 番号調べしたら1億5,000万円

宝くじファンに「宝くじ購入の一番の楽しみはなにか？」を聞いたら、どんな「こたえ」が返ってくるだろう。宝くじを「買う前・買う時・買ったのち」などの段階で、それぞれに楽しみはあるが、予想できる一番は、やはり、買った宝くじの「当せん番号調べの瞬間」だろう。

長野県の会社員Wさん（61）は長年の宝くじファンで、すべての宝くじに挑戦。そして、いつも、売り場で番号調べをしてもらうが、年末ジャンボ宝くじだけは特別。「大みそかの夜に家族みんなが集まって、年越しそばを食べながら、1枚1枚、調べる」そう。ご存知、

年末ジャンボ宝くじは大みそかの屋間に抽せんが行なわれ、インターネットなどで当せん番号が発表されるが、これをもとに、番号調べを展開。「いまや、我が家の大みそかの恒例行事でして、にぎやかで楽しい」とWさん。

昨年の大みそかも、買ってきた年末ジャンボ宝くじ（第731回全国自治宝くじ）50枚の番号調べ大会開催。声を張り上げて1枚ずつ慎重に。そうしたら、なんと、1等の当せん番号と…。一瞬、全員が大緊張。結果は1等の後賞の1億5,000万円に当せん。これで全員が大興奮。何度も何度も、かわるがわる、番号調べ。そして、寝つけぬままにお正月の朝をむかえたそう。「初詣は、家を留守のするのが心配で、交代で出かけました」と、満面の笑みで語るWさんだった。



ご当地クーちゃん
デコボンクーちゃん

宝くじ おもしろ話

宝くじの券面にある隠し文字 「番号」の下に3つの文字が

宝くじ券の「命」ともいうべき「番号」だが、券面における「番号」記載周辺には変造・偽造防止のための「細紋」が施されている。と同時に、番号の下部分に「隠し文字」があるのをご存知だろうか。よくみると、肉眼でも見える。全部で3文字で、文字は宝くじの種類で異なり、発売回別でも異なる。

昨年暮れの年末ジャンボ宝くじ（第770回全国自治宝くじ）の場合だと、3文字は「タ・セ・0」だ。見つかったらどうか。見つかったとして、さて、これはナニを意味しているかだ。回答は「タ」は宝くじで「セ」は全国自治。

そして「0」は発売回別・第770回の「0」だ。

各ブロック宝くじの場合はどうか。新年に発売された初夢くじで見ると、東京都宝くじ（第2413回）は「タ・ト・三」で、関東・中部・東北自治宝くじ（第2475回）は「タ・カ・五」、近畿宝くじ（第2594回）は「タ・キ・四」で、西日本宝くじ（第2283回）は「タ・ニ・三」だ。

これら「隠し文字」の目的はなにかというと、宝くじ券の変造・偽造防止だ。では、これを秘密にすべきかということ。お札などの場合と同様に、あえて宣伝はしないが、人々に知られることで変造・偽造の防止につながるそう。ちなみに、この隠し文字がいつから登場したかということ、いずれの宝くじも昭和38年（1963年）の夏からだ。



ご当地クーちゃん
なまはげクーちゃん